

あこう風(のたより)

12月

発行責任者
原 田 尚 之

【校長室より】

『更なる飛躍の年。そしてGOTOグローバルへ』

2年生は、12月7日から4泊5日の修学旅行に参加し、充実した研修を行ってまいりました。今年度は志賀高原でのスキー研修と関東地区企業・学校訪問、都内班別自主研修が主な内容です。12月実施ということで確実に降雪が見込まれるスキー場を選定したのですが、ここ30年間で初めて、直前まで雪が降らない状況になりました。万が一に備えて別案も作成し、ハラハラドキドキの状況でその日を迎えました。幸いなことに生徒職員の願いが天に通じたのでしょうか。スキー研修の2日間は澄み渡る青空の下、白銀の世界を大いに堪能することができました。初めストックを杖代わりに恐る恐る足を踏み出す生徒の姿がありましたが、徐々に雪に慣れ、歓声を上げながら、スキーを楽しむ姿が見られるようになりました。勢い余って尻餅をついたり、他の生徒に突っ込んだり、失敗を重ねながらも少しずつ生徒の笑顔がグレンデに広がっていきました。閉校式が近づくにつれ、もっと滑りたい、スキー最高という生徒たちの声が聞こえ、五島では体験できないスキー研修を実施してよかったという思いを職員は持ちました。また、生徒たちにとっても、何事もやればできる、難しいことでもコツコツ努力すればできるようになるという自信がついたと思います。これからもいろいろなことにチャレンジしてもらいたいと思います。

後半は関東地区企業・学校訪問と都内班別自主研修でした。衛生看護科は東京衛生学園専門学校を訪問し、上級学校の施設設備を体感。これから看護師を目指す上での準備ができたものと思います。普通科は、日本科学未来館、パナソニックセンター東京、NHKスタジオパークを初め、各種企業を訪問しました。その中でも五高OBがおられるヤマト徽章、高栄警備保障、第一高周波工業では特に手厚い歓迎を受けました。これからの企業のあり方だけでなく、後輩に託す思いも熱く伝えていただき、生徒も大いに感激いたしました。

「あこう風(のたより)11月号」でもお伝えした通り、本校では総合的学習の時間を見直しております。将来活躍する場所や立ち場が何であれ、自然豊かで温かい人たちに支えられている五島の活性化に貢献できる人材の育成を図っていきます。GOTOグローバル(グローバルな視点を持ち、ローカルに活躍する)な世界で活躍し、素晴らしい先輩たちに続いて欲しいと切に願っています。

さて、今年も残すところあと1週間となりました。皆様にとってどのような1年だったでしょうか。世の中の動きもめまぐるしくなり、教育を取り巻く環境も年々厳しくなってきました。人と人とのつながりも、直接会ってよりも機器を通してのことが多くなり、便利さの中で、大切なことを忘れがちになる時もあります。人の温もり、喜怒哀楽の顔の表情、手書きの文字の温かさ等。デジタル化が進む中でアナログの良さを忘れないようにしたいものです。

来年も五高生は更なる成長を目指して頑張ります。今後とも地域や保護者の皆様からの温かいご支援を改めてお願いいたします。



2年生修学旅行（12月7日～11日）



私たち2学年団は、12月7日（月）から11日（金）の4泊5日の日程で、修学旅行へ行ってきました。5日間を時系列に振り返ってみます。

1日目：天候は晴れ。福江を出発しフェリーの旅は波おだやか。この日は、フェリーを降りバスへ乗り継ぎ、いかに長崎空港へ早く到着できるかが最大の難所。昨年より20分も飛行機の時間が早まったため心配していましたが、生徒達が機敏に動いてくれたおかげで予定より早く空港へ到着しました。その後の飛行機、バスの旅も順調で、ほぼ予定時刻に志賀高原のホテルに到着。移動ばかりの1日でしたが生徒達は元気でした。

2日目：天候は晴れ。心配された雪も見事に積もり、スキー研修スタート。スキーは初めてという生徒がほとんどでしたが、インストラクターの方々の指導により午後には直滑降で滑れるようになりました。夜に行われた学年レクリエーションも大いに盛り上がりました。修学旅行委員のみんながとても頑張ってくれました。楽しい時間を過ごせました。

3日目：天候は晴れ。スキー2日目。生徒達は前日にも増して上達し、プルークボーゲンでスイスイと滑る姿が印象的でした。高校卒業後に、またスキーに行きたいと思った人は多いはず。たくさんの人が達成感を味わえたと思います。その後バスで東京へ移動。お台場で夕食をとり、ほぼ予定時刻にホテルに到着。



4日目：天候は曇り。午前中は企業訪問。午後は都内班別自主研修でした。満員電車での移動は大変だったと思いますが、それも含めて東京のいろいろな面を垣間見ることができたのではないのでしょうか。企業訪問で学んだことを今後の生活に生かしてください。

5日目：天候は雨のち曇り。飛行機の出発が1時間遅れてしまいましたが、予定通りジェットフォイルに乗ることができ無事に福江に到着。生徒達が修学旅行を通して得たものはとても大きかったと思います。生徒達には、修学旅行を支えてくださった方々に対し、進路実現という形で恩返しができるよう、今後の学校生活を充実させていくことを期待します。

修学旅行 生徒感想

五島では味わうことのできない体験をたくさんすることができ、とても楽しかったです。特にスキー研修は多くの不安を抱えてのぞみましたが、どうにか滑ることができました。自分の考え方によっては嫌なことも、辛いことも、喜びを見いだせるものになります。だからこそ、壁が高くそびえたったときも楽しく、何より前向きに物事を捉えていきたいとおもいました。企業訪問では、働く人の忙しそうなお姿を見ることができました。今は、就職難という言葉があるように、就職活動が難しい時代ですが、自分の武器となるものを見つけ、誰にも負けない自信をもって物事に取り組めるような人になりたいと思いました。自分の中で一番の大きな刺激となったので、これからの学校生活を有意義に過ごすためにも、目の前のこと（特に勉学）に全力で励みたいと思います。

スキー研修ではインストラクターの方々が優しく教えてくださり成長することができました。頑張ればできるようになるという達成感など多くのことを学ぶことができました。自主研修では班のみんなと協力してとても充実した時間を過ごすことができました。いろいろな人に感謝の気持ちを忘れずに、今後の学校生活を送りたいです。

企業訪問ではアサヒビールさんに行って、自分がやらないといけないことに一生懸命に取り組むことが大事だということ学びました。アサヒグループさんの説明を聞き、働いている方々の真剣な気持ちが伝わってきました。何かに一生懸命に取り組む人を、会社は採用するという話も聞き、今私は何かに一生懸命に取り組んでいるのか？と問いかけるいい機会になりました。私はいつも理由をつけて中途半端なので、これからは勉強と部活、この2つを一生懸命に取り組んでいきたいと思いました。都内の班別自主研修では、友達と協力し合う大切さを学びました。1人ではきっと迷子になっていたと思います。みんなに助けられて無事に研修を終えることができたと思います。みんながみんなを気遣い合って、嫌な思いをすることなく、楽しむことが出来ました。修学旅行でいろんな人たちとの仲を深めることが出来て良かったです。

4日目は東京でしたが、長崎のように1つの電車に乗れば簡単に着くものではなく間違ったら全く違う場所に行ってしまうので緊張しました。しかし、1番は、5分前行動に遅れてしまったことを反省しています。こういう経験をしたからこそ、5分前行動の大切さが分かりました。これからの学校生活ではきちんと守っていききたいと思います。そして昼からは自分たちで自由に活動し、みんなと楽しい思い出作りができました。買い物もたくさんして、話をして、絆が深まった素敵な日になりました。なかなか行けない東京なので緊張しつつも自分が思っていたよりも楽しめて、日本は素敵だなと思いました。移動が多くて大変でしたが、全てのお世話をくださった添乗員の方や、バスガイドさん、運転手さん、先生方、ホテルの方や、そして両親に感謝をして、この気持ちを忘れないようにしたいです。

今回の修学旅行では指示を人任せにせず周りの人のことを考え、自分に何ができるかを考え行動することの大切さを改めて感じました。また、班やクラス、学年や先生、みんなのおかげでとても良い経験のできた素敵な修学旅行になりました。みんなの優しさを大切にして、私も周りの人に優しくできる生活を送りたいと思いました。家族を含め周りの人への感謝を忘れません。充実した修学旅行になりました。

僕はこの修学旅行を終えて楽しむためにはきつさと厳しさがあるのだと思いました。スキーの際には危険も多いスポーツだと聞いていたので、真剣に指導を聞き、一生懸命に練習しました。そのため、最後の方で自由に滑ることが出来る機会があったのですが、とても上手に滑れたように感じました。それはずっと真剣に取り組んでいたからだと思います。やはり、楽しいことをするためにまずは基本のことや、少し苦しいことをするのが大切なのだと感じました。

上位大会に出場して（バドミントン部）

顧問 今鹿倉直

熊本県で開催された全九州高等学校選抜バドミントン競技大会に参加させて頂きました。長崎県としては、離島地区から初出場ということで、大変光栄なことでした。生徒達は、出場校のレベルの高さを目の当たりにし、自身の競技に対する想いを一新する機会になったことと思います。結果的には、勝ち上がることが出来ませんでした。自分たちの技術が多少なりとも通用することを感じ、自信にも繋がったはず。多くの競技がそうであるように、バドミントンも選手の精神状態がプレーを大きく左右します。九州大会に出場する強豪校であっても同様であると感じました。本校の生徒は、技術もさることながら気持ちの面がまだまだ発展途上です。これからの半年間、さらに己を鍛え上げ、「上手い選手」ではなく、

九州新人大会に出場して（柔道部）

顧問 引地勝

11月21日（土）に佐賀県で開催された第19回九州高等学校新人柔道大会の男子団体の部に五島高校柔道部が出場いたしました。3年ぶりの大会出場となり選手たちも緊張した面持ちで会場入りし、調整練習を入念に行っていました。メンバーは、2年（祝裕介、竹山和摩、千田泰世、石原亮治、山村博昭）1年（横枕拓八、梶尾博次）の7名です。1回戦の対戦相手は、熊本県の第1シード校である九州学院と対戦しました。試合は、先鋒の竹山和摩が積極的に相手を攻め込みましたが、試合終了間際にすきをつかれ押さえ込みで1本負けをしてしまいました。その後、次鋒（祝）・中堅（千田）・副将（横枕）・大将（石原）と粘り強く戦っておりましたが、結果的に全員が1本をとられ、1回戦敗退という結果に終わりました。今回は、残念な結果に終わりましたが、今後の練習で力を付け、長崎県の予選を突破し、28年3月に日本武道館で開催される全国選手権大会や8月のインターハイで、上位に進出することを期待しています。顧問として闘争心・筋力・技を融合した攻撃柔道を徹底させ、各種大会で上位に進出することができるよう指導してまいります。みなさま方の応援をよろしくお願い致します。

平成27年度長崎県高等学校総合文化祭【美術部門】結果

絵画部門	優秀賞	1年	下村 悠太（平成28年度全国高等学校総合文化祭に推薦）
	優秀賞	2年	才津 桃子
	優良賞	2年	浦 きみか
	入選	3年	大村 美優ジン
デザイン部門	入選	1年	下村 悠太



右) 下村 悠太 「それまで」

ユニセフ募金（生徒会）

今年の五島高校生徒会の募金活動として、平成27年12月1日（火）から4日（金）の4日間、ユニセフ募金に取り組みました。みなさんからの募金は、国連のユニセフを通じて、世界中の子どもたちのために使われます。現在、世界で5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間590万人といわれています。全ての子どもが、乳幼児期に十分なケアを受け、守られ、より良い人生のスタートを切ることを祈りたいと思います。五島高校のみなさん、そしてそのご家族の御協力もあり、今年は例年より多い106,632円もの募金が集まりました。この募金によって、私たちに守ることのできる「命」を守っていただけることを願います。そして、今、日本でこうして健康にすごすことのできていることに感謝し一日一日を大切にすごしていきたいと思っています。

乗馬実習を終えて（スポーツコース）

10月から11月にかけての5日間で、スポーツコース3年生の生徒14名が乗馬実習を行いました。この実習は、五島自動車学校様のご厚意により行わせていただいております。馬事管理部長の倉田伸利さんのご指導のもと、正しい乗馬の姿勢や方法、また馬のお世話等、専門的に細かく教えていただきました。はじめは大きな馬に緊張しビクビクしていた生徒も、後半は馬の移動やブラッシング、爪の掃除、馬舎の掃除など慣れた手つきで作業できるようになっていました。乗馬に関しては最初は歩くことから始め、慣れてくると速歩（はやあし）で馬を走らせます。スピードが上がると揺れが一気に大きくなり、生徒は苦勞しながらも目を輝かせて意欲的に取り組んでいました。また、想像以上に下半身の筋力を使うようで、日頃運動している生徒達でも実習後は内ももが疲労感に襲われているようでした。馬と触れ合い、実際に肌で感じることで、非常に貴重な体験ができたようです。この経験を、人生や今後の生活にも生かしてほしいと思います。



施設実習を終えて（衛生看護科）

長いようで短かった6日間の施設実習が終わりました。この実習の中で特に印象に残ったのは、施設の利用者様の姿でした。その方は、病気のため、片手を自由に使用することができない方でしたが、自分に出来ることを見つけ、挑戦していらっしゃいました。時には、「はがいかねー。」とおっしゃりながらも、悔しさや怒り、悲しみを表には出さず、自分の残された片方の手で、様々なことに挑戦しようとする強い思いに、私は心を打たれました。私も、もっと多くのことに挑戦し、失敗しても何度も頑張り続けたいと感じました。

また、実習を通して上手いことばかりではありません。しかし、何を行っても利用者の方々から「ありがとう。」という言葉をいただきました。自分が上手く行うことのできなかった介助に対しても、必ず「ありがとう。」と温かい言葉を言っていただき、とても嬉しかったです。まだまだ反省点は多く残りますが、その一つひとつを改善していくことが今後の課題だと思いました。看護職として責任ある行動がとれるように、今後も頑張っていきたいと思っています。



各学年より

学習と部活動の両立 ～「打ち込む」ことと「切りかえる」こと～

1学年主任 谷口 享

今年も残すところ、あと1週間余りとなりました。もうすぐ新年を迎え、来年は高校2年生になる君たちに、今一度、五島高校における学習と部活動について考えて欲しいと思います。今まで私が出会った中で、二つの両立を見事に果たした生徒の特徴は、「打ち込むこと」と「切りかえること」にありました。補習や授業に「打ち込み」、放課後は「切りかえ」て部活動に「打ち込む」。そして、部活動が終わったら、学習に気持ちを「切りかえ」、長く学校に残ることがない。すぐに帰宅し、夜は家庭学習に「打ち込む」のである。彼らは、中途半端からは何も生まれず、得るものもないことを悟っている。だから、限られた時間に集中して「打ち込む」のである。そして、学習から部活動、部活動から学習への「切りかえ」が速い。だらだらと引きずることがない。合格していった生徒達は、バスの中では英単語を覚えた。休み時間に翌日の予習を済ませた。誰よりも早く登校して小テストの勉強をした……そうやって時間を活用していたのだ。1年生の皆さん、今の君たちの生活はどうですか。学習や部活動に「打ち込み」、しっかりとその後の「切りかえ」ができていますか。年が明けると、いよいよ1年間の仕上げとなる3学期が始まります。新年を迎え、また気持ちを新たに、1年生としての残り3ヶ月の期間で“真の文武両道”を目指して欲しいと願っています。

自分との約束を日々果たす

第2学年主任 淵上 透

“It is in the ordinary events of every day that we develop the proactive capacity to handle the extraordinary pressures of life.”「人生の大きなチャレンジに主体的に対応する力が育成されるのは、日々の平凡な出来事の中にある。」この言葉を残した、スティーブン・R・コビーさんは「主体性の本質は自分自身や人に対してする約束と、それに対する誠実さである。」とも言っています。大リーガーのイチロー選手もさまざまな場面で同様のことを言っています。2年生は年が明けるといよいよ3年生です。進路実現という大きなチャレンジをすることになります。やりたいことやなりたいものを見つけ、そこに到達するためには日々の積み重ねが大切であるという原点にもう一度立ち帰りましょう。そして、日々の積み重ねを充実したものにするためにも、自分との日々の約束は絶対に守ること。コツは実現可能な約束をすることです。「毎日必ず英単語を10個覚える。」「帰宅して1時間後には必ず勉強を始める。」など。これが1ヶ月続けば自信になり、自分への誠実さのレベルをさらにあげていけるようになります。「自信とは自分を信じること。」そのためには実績を積み重ねるしかありません。正月に初詣に行く人も多いと思いますが、進路実現は神頼みではなく、自分を信じて1歩ずつ進んで行く先にあるのではないのでしょうか。

「鍛えること、磨くこと」

第3学年主任 久保田 幸成

センター試験まで約1ヶ月、准看資格試験まで約2ヶ月となった。3年生受験者の全員が自己ベストの点数を出し、春には合格通知を手にするを願うばかりである。だが願うだけでは結果が出ないことはわかっている。そうするためには「鍛える」しかない。

私は小学校の6年間、近くの高校まで水泳を習いに行っていた。体力作りとは程遠いハードな練習で、竹刀を持った鬼コーチのもと相当な距離を泳いでいた。当時はとても練習が嫌だったが、今思えば頑丈な身体を作っていたら、上達するための秘訣を身体で教わった。本当にありがたい。またある校長先生はある競技の開会式で、高校生にこうおっしゃった。「若いうちに自己を鍛える経験を積み。その経験が将来必ず生きてくるはず」その経験を積んでいる最中の者は、今はそのよさがわからない。鍛えた成果は、数年後に開けてみてわかるタイムカプセルのように時間が必要で、熟成されるものなのだろう。

だから私が今やるべきことは、3つあると考える。1つめは残り少ない授業で1点でも多く点数を取らせるために、チョークが粉々になるくらい、鬼気迫る思いで講義をすること。2つめは年末年始7:00～18:30まで学校を開放し、約10時間の自学ができるようにすること。3つめは目標を諦めさせず、最後の最後まで自己を磨く経験をさせること。この実行が、高校で鍛える最後のチャンスだと思う。思えば3年生にとって高校生活も残りわずか。是非ご家庭でも学校利用を奨励していただき、励ましも併せてお願いいたします。